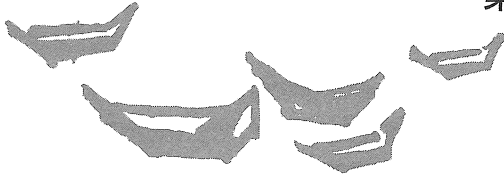


ささぶね

第31号



竹早教員保育士養成所同窓会

ささぶね31号をお届けいたします。

会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。この同窓会が発行している「ささぶね」の名称の由来は「幼な子とともに小川に流した笹舟がいつか大海に出て広い世界に進出してゆくように」と命名されたと創刊号に記されています。命名のようにおおきな流れとなるように努力して、同窓会員にお届けしております。



耳をすまそう 絵本のささやき

会長 下平 喜代子

絵本は0歳から100歳まで楽しめると言われてます。すばらしい世界です。

絵本について学生達から次のように質問がありました。

- ・絵本の読み聞かせは何故よいのでしょうか。
- ・絵本が子どもに与える影響は何ですか。
- ・絵本を読んだ後の対応はどのようにするのですか。
- ・上手な読み方、読み方のコツはありますか。
- ・よく耳にする「よい絵本」ってどんなものですか。
- ・読んだ後のまとめは、どんなやり方が好ましいのですか。等々学生からの質問があります。

私は、これまで絵本の会の仲間として、有志の方々と研修会を継続していますが、参加者は、大学から幼稚園等に勤務されている先生方と、具体的、実践的な立場から議論百出しながら会を進めています。小学校で低学年を担当していらっしゃるA先生は、毎日、絵本の読み聞かせをしていると伺って、感心いたしました。子ども達はその時間を楽しみにしているとのことでした。

質問にある「よい絵本とはどんな絵本ですか」について一部を紹介します。

子どもにとって絵本を見るのは、発見の連続です。幼い子が覚えたばかりの言葉で発見したものを、大声で叫ぶことのできるような本がよいと思いますが……

- ①豊かなファンタジーの絵本：花や動物達に話しかける非現実的世界 「てぶくろ」に見るような不思議な世界
- ②美術的な絵本：明るい色、色彩感覚の豊かさ、優れた構図、線や形のよさ
- ③情操的な絵本：「笠じぞう」のように。思いやりの心、相手の気持ちになって考えることの大切さが伝わってくる。
- ④科学的な絵本：自然界をはじめ日常生活の中でも不思議や疑問に思うことがたくさんある。知的好奇心一杯の幼児期に伝えてくれる「ふゆめがっしょうだん」など
- ⑤社会性豊かな絵本：家族や社会の一員になることを学べる「はじめてのおつかい」等があげられる。

絵本には、作者から読者へのメッセージが豊富に述べられています。

なお、本年は同窓会創立80周年にあたります。特に、研修会は80周年記念として開催いたします。お誘い合せでご参加下さい。

・保育研修会

今年度は7月30日(日)に実施いたします。

なお、本年10月1日(日)は、同窓会創立80周年記念式典及び祝賀会が学校法人竹早学園・竹早教員保育士養成所創立130周年記念と併せて校舎で行われます。

(詳細は、別紙(4)下段参照ください)

本年の研修会は竹早教員保育士養成所同窓会創立80周年記念研修会として行います。周年行事に相応しい研修会として、別紙チラシのように楽しい企画で行います。日常生活でも仕事やボランティア活動にも必ず生きる研修会を企画しました。皆様揃って80周年を祝い絆を深める良い機会として、この研修会に誘い合わせてご参集ください。

・会報発送作業ボランティア

毎年5～6月に発送のお手伝いをお願いしています。お願いの手紙が届きましたら、是非、ご協力をお願いいたします。

・維持会費

同窓会を維持発展させる大きな原動力です。28年度は会員の方々の温かいお心に支えられて、198名のご協力をいただきました。ご厚志に厚く感謝申し上げます。なお、同窓会創立80周年に向けて、皆様の温かいご理解、お力添えをさらに、よろしく願いいたします。

・学生募集

29年度新入生は133名です。母校のために、なお一層のご協力をお願いします。

0歳児保育

学校法人 竹早学園
理事長 吉野 尚也



今、「一億総活躍時代」というスローガンのもと「母親は子どもを出産後、早々に職場復帰するのが当然」という風潮が日本列島全体に吹き荒れています。

果たして、保育園を増設し「待機児童ゼロ」、わけても乳児を保育園に預け、母親が職場復帰することが「母親の活躍」なのでしょうか。それが、本当に日本の未来のため、日本人の幸せのためになるのでしょうか。

確かに、共働きにより経済的充足は得られ、女性のキャリア保全につながるかもしれませんが、それは子どもの大きな犠牲の上に成り立っているように思えてならないのです。

乳児が0歳時に長時間お母さんと離ればなれにされ、母親との唯一無二の関係が脆弱なまま「集団の一員」として「平等」の中で生きなければならない時、その子のところの中ではどんなことが起こっているのでしょうか。

乳幼児期の体験が人生に重大な意味をもつだけに、そうした環境で育てられた子ども達はどのように成長していくのでしょうか。警鐘を鳴らさざるを得ません。

～竹早の教務室から～

中村 香津美

平成28年度は、入学式・卒業式が本校第一校舎三階の第五教室で行われました。竹早教員保育士養成所の129年の歴史の中で初めて行われたことです。本校校舎内で行うことの意義が深く感じられた入学式・卒業式として、思い出深いものとなりました。保育研究発表会も平成24年度から本校校舎で行われるようになって、五年が経ちます。保証人の方々、同窓会、地域の方々など子どもたちも来校してくださり、定着してきたように思います。

平成29年度、竹早教員保育士養成所は130年を迎えます。今年度は133名の新入学生を迎えました。幼稚園、保育所、子ども園それぞれで保育者不足が深刻な問題となっています。社会のニーズに応えられるように、学生一人一人が保育者になる夢を実現して欲しいと願っています。

竹早の長い歴史の中で、在校生として、教員として、母校とかかわれることに幸せを感じながら、毎日学生と生活を共にしています。

一歩ずつ、ともに進もう

所長 齊藤 光一



この3月には113名の卒業生を送りだしました。これらの卒業生たちは、同窓会員としての新たな出発の時を迎えました。先輩の同窓生の皆さま、新同窓会員へのご支援をよろしくお願いいたします。

平成28年度は、入学式、卒業式とも本校の校舎内で実施しました。これまでは外部のホールで実施してきましたが、今年度からは教職員が力を合わせて準備した手作りの式場での実施となりました。式場は手狭ですが、保証人の皆様と学生の距離が近いので、厳粛な雰囲気と同時に、アットホームな雰囲気も醸し出されました。

同窓会の皆様には、入学式前からの新入生への呼びかけ、入学式の祝辞、夏の保育研修会への1年生の参加、保育研究発表会への出店など、在校生との絆を強める取り組みにご協力いただき感謝しております。

また、平成29年10月1日(日)には、創立130周年の記念式典、祝賀会も開催されます。現在、同窓会、後援会、学校が心をつなげて周年行事の準備に当たっております。

今後とも、同窓会の皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成28年度のおゆみ

4. 2	新入学生にお祝いエプロン贈呈	10. 7	第2回正副会長会「研究発表会について」
4	平成28年度入学式 下平会長あいさつ	11. 11	特別委員会「保育研究発表会について」 後援会と合同打ち合わせ
26	第1回正副会長会 「研修会について」	12. 22	保育研究発表会前日準備
5. 27	同窓会創立80周年 記念事業実行委員会発足	23 ～24	保育研究発表会開催 本校に於て
6. 7 ～8	第30号「ささぶね」等 発送作業 ボランティア延20名 協力完了	1. 27	第3回正副会長会・ 事務局連絡会
24	特別委員会開催 「保育研修会について」	3. 14	新幹事歓迎会
7. 29	保育研修会前準備	16	平成28年度卒業式 下平会長出席
31	保育研修会開催	24	平成28年度理事総会

28年度活動報告

第16回 保育研修会

*日 時：平成28年7月31日(日) 10:00~15:45

*会 場：竹早教員保育士養成所第1校舎

*参加人数：163名(内在校生121名) 午前の部：講演 午後の部：実技 ティータイムが開催された。

<午前の部> 講演

テーマ：豊かな心を育む自然との共生～保育者のための理想的なふれあいとは～

講 師：プロナチュラリスト・プロの自然案内人 佐々木 洋先生

「自然に親しむ」をキーワードに自然との付き合い方として、「親しむ 知る 守る」という流れがある。自然とのふれあいの楽しさを伝えることができれば、興味や関心の心が育つ。都会にもセミやスズメなど小動物や草花が身近にあり、パワーポイントの映像で、指導者としての触れ合い方。そこに潜む危険なことも知って対処すること。クイズ例：セミの寿命は？ニイニゼミは土の中7年・羽化して1ヶ月生きるものもいる。アブラゼミは何でアブラゼミか？油で揚げものをしている時の音に似ているから、など。知っているようで知らないことを学んだ。「自然の力はすごいと感じた」「佐々木先生の話は楽しくて、この蘊蓄を保育士になったら伝えたい」「現場ですぐに伝えたい」などの声が寄せられた。

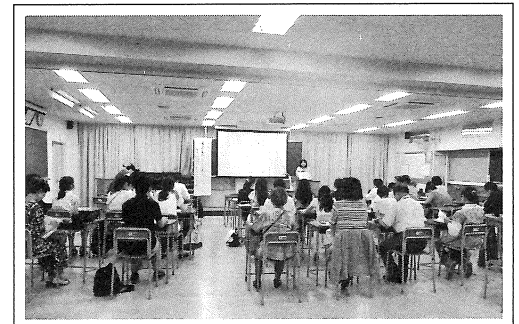


<午後の部> 実技

テーマ：身近な自然とのかかわりを通して～保育現場で命の大切さを伝える具体的な方法～

講 師：文京学院大学 児童発達学科教授 鳩山多加子先生

自然とのかかわりの大切さや意義とは何か。生命の尊さ・保持について豊富に用意して下さった資料や先生の現場での貴重な体験から学んだ。実践例：小さな生き物を共に探す・世話をする。自然環境を活かした「飼育栽培と遊び」「保育者の具体的なかかわり」など OHP・パソコンの映像で活動の様子を知った。その後グループでテーマと困っていること・命を育てる具体的な方法・動物の死んだ時の命の大切さを伝える方法など話し合った。方法として、ある園の園だより・園長室だより・童謡などを通して伝える方法。童謡はオウマ 七つの子 など親子の姿が浮かぶものを合唱した。「子どもに命の大切さを伝えること、為になりました」「環境設定の大切さ・実技(事例)を聞くことができて良かった」等の声が寄せられた。



<ティータイム> 研修後の懇親会

今年も学園からは、吉野理事長、齊藤所長、河野副所長を始め担任の先生方、前田同窓会顧問、同窓生、在校生が参集した。清水副会長の司会で和やかな楽しい会となった。スペシャルゲストとして、シャンソン歌手：吉村直樹氏(同窓会員の息子さん)が、「すみれの花咲く頃」など8曲熱唱。花束を1年生が贈呈。盛大な拍手が送られた。在校生からは「先輩の方の近況を伺うことができ、また、シャンソンを聞くなど楽しい時間を過ごしました」「歌声でこんなに感動するんだと感じました」の声が寄せられた。

保育研究発表会

今年度は2日間とも学校の開催時間に合わせて、午後4時まで開設した。

12月23日・24日後援会との共催で保育研究発表会に“お休み処 ささぶね”を開設した。後援会との共催も5年目、後援会の方々も、私達は何に取り組みましょうかと自主的に取り組んでくださった。また、今年は男性の後援会員の方の参加があり、高いところの展示物や重い物の移動も“おまかせマン”の登場となり、頼りになる力強い存在となった。テーマは「ゆっくりくつろげる」である。展示物は同窓会の歴史に加えて、同窓会の活動の様子など写真で展示した。そして、今年は、多くの若い同窓生が赤ちゃんを連れてベビーコーナーに集いお休み処で待ち合わせ、赤ちゃんを見ながら微笑み合い、育児の話をしている姿に私たちもやさしい時間を共有することができた。今年も、こだわりのお茶とお菓子で受付、接客など、おもてなしの心をもって行った。



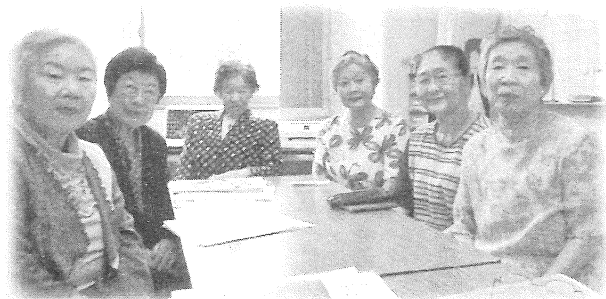
【平成 29 年度 竹早教員保育士養成所同窓会・理事会組織】

役 職	氏 名	卒業年	役 職	氏 名	卒業年	役 職	氏 名	卒業年
会 長	下 平 喜代子	S.27	理 事	大 野 千恵子	S.43	理 事	佐 藤 能 美	H.27
副会長	田 中 靖 子	S.33	理 事	細 田 和 子	S.44	理 事	木 村 萌 乃	H.28
副会長	塚 越 アサ子	S.40	理 事	八重樫 純 子	S.45	理 事	木 賀 あずさ	H.28
副会長	清 水 道 代	S.57	理 事	福 岡 潤 子	S.46	理 事	津 崎 愛 子	H.28
副会長	湯 澤 都与子	S.41	理 事	高 原 泰 子	S.46	理 事	薄 根 むつみ	H.29
副会長	福 田 多喜子	S.44	理 事	鳩 山 多加子	S.46	理 事	山 本 夢	H.29
会 計	岡 川 洋 子	S.36	理 事	大 野 みどり	S.52	理 事	青 塚 隆 浩	H.29
会 計 養成所職員	山 口 直 美	S.55	理 事	橋 本 明 美	S.55	幹 事	新 井 真由香	H.29
会計監査	上 田 恵 子	S.44	理 事	清 水 百合香	S.55	幹 事	鈴 木 杏 奈	H.29
会計監査	小野寺 萬亀子	S.38	理 事	井 関 公美子	H. 6	幹 事	鈴 木 亮 介	H.29
理 事 養成所職員	中 村 香津美	S.55	理 事	田 中 通 子	H. 8	事務局理事	湯 澤 都与子	S.41
理 事 養成所教員	小 川 貴代子	H. 8	理 事	藤 井 大 輔	H.24	事務局理事	糸 幸 子	S.29
理 事	糸 幸 子	S.29	理 事	渡 邊 郁 美	H.25	事務局理事	今 野 君 江	S.35
理 事	今 野 君 江	S.35	理 事	梁 本 友 華	H.25	事務局理事	岡 川 洋 子	S.36
理 事	釜 井 孝	S.39	理 事	大 廣 千 秋	H.26	事務局理事	釜 井 孝	S.39
理 事	川 村 美津子	S.40	理 事	武 井 彩 香	H.27			

事務局だより

平成29年度は同窓会活動の充実発展にご尽力くださいました副会長1名、事務局長、事務局員1名が交代してスタートしました。ご退任されたのは副会長の糸 幸子、事務局長釜井 孝、事務局員大野千恵子です。新たに副会長として福田多喜子、事務局員には岡川洋子が着任しました。なお、大野千恵子は理事として、糸 幸子、釜井 孝は事務局員として続きます。事務局の仕事としては①会報「ささぶね」の編集発行②保育研修会の計画実施③会員名簿の管理、整理④学校関連事業（同窓会紹介、新入生祝い品の準備＝エプロン、保育研究発表会への協力等）

なお、本年度は80周年に向けて養成所との連絡調整も情報を交換しながら昨年に引き続きワイワイガヤガヤ賑やかに取り組んでいます。



新事務局員紹介

岡川 洋子 (S.36年卒)

4月より事務局員にお仲間入りしました。卒業後から平成の初めまで、事務局員をしており、久方ぶりの復帰となりました。下平会長始め事務局員の皆様にご指導いただきながらお役に立ちたいと思っております。

会員の皆様に次のことについてお願いいたします。

○住所、氏名、その他変更事項がありましたら必ず事務局までお知らせください。

○維持会費振込用紙に卒業年度をご記入ください。

編集後記

歴史と伝統ある同窓会の「会報ささぶね31号」もおかげさまで皆様にお届けする運びとなりました。

お忙しい中、玉稿を吉野理事長様、齊藤所長様はじめ会員皆様のお声を寄せていただきました。文面に流れる皆様の竹早での生活や思い出の数々、現在の取り組みなど同窓会に寄せる熱い心を受け止め絆を結ぶ交流の場としていきたいと思っております。ボランティアの方々のおかげで発送できました。ありがとうございました。

ささぶね 第 31 号

発行日 平成 29 年 6 月 1 日
 発行 竹早教員保育士養成所同窓会
 代表者 同窓会長 下平 喜代子
 印刷 有限会社 三香堂印刷

同窓会事務局

《開局日 毎週火曜日 10:00～15:00》

〒112-0002 文京区小石川 4-1-16

TEL / FAX 03-3813-7188

メールは都合により中止、連絡は電話または FAX で願います。

せせぶねひるば

おもいで・近況報告

働き始めて

板脇 和美 H28.3 卒

竹早を卒業し、つつじがおか幼稚園で働き始めて、早 1 年になります。

自分が憧れていた「幼稚園教諭」になることができ嬉しかったと同時に「幼稚園教諭」として働く責任の重さを知りました。

実習とは違い、子ども一人ひとりと向き合い、言葉がけを変えて接した方がよいと学んだ時悩みました。そんな時先輩方に指導していただき、今は担任としてよりよい保育を子どもたちに実践できているかと思っています。

一年、学級担任をしてみて

川元 那侑 H27.3 卒

私は 4 歳児を一人担任で一年目を頑張っています。今年一番痛感した事は、子どもの可能性を摘み取らないとはどういう事かよく考えさせられました。いざ現場で集団を相手にしていると考える時間も無く対応をしていく事が多いです。さらに、流れを作っても予定通り想像通りに子どもが動くという事もほとんどありません。予想外という事を常に考えて冷静に対応が求められます。はじめは“時間がないから集まって”“危ないからやめよう”これが冷静な対応だと思っていました。しかし、それはチャンスを摘みとってしまっている事だと気づくようになりました。ようやく子どもが夢中になれた事を見つけたのに途中でできなかつたら力につけられない。危ない経験をした事がなければどうして危ないのか分からない。大人がよかれとしている事が可能性を摘み取っている事があるのでは、本当に今その子にとっていい声をかけたのか、一瞬でも考えるようになりました。子どものやりたい事、一緒にやってみる遊んでみると考えが見えてくるんだと現場に行ったからこそ痛感しました。

つながる竹早の心

御手洗 竹代 (旧伊藤) S55.3 卒

卒業以来ずっと幼稚園に勤めています。初めて就職した私立幼稚園は園長先生が卒業生でした。東京都の公立幼稚園に採用されてからも、職場にはいつも竹早の先輩がいました。掃除の仕方は自分の心を映す鏡であること、小さな生き物や植物を大切にすることは何より子どもを大切にすることにつながる心、子どもにとって親切なだけの教師がより良き導き手にはならないこと…教えていただいたことは数限りなくあります。

残念ながら後輩に出会えることは少なくなりましたが、保育者の大切なこととして伝えていきたいと思うこの頃です。

夜間部で学んだ思い出

森 良子 (旧須藤) S41.3 卒

昭和 39 年東京オリンピックの年に入学そして 41 年卒業。私は昼間幼稚園の助手をして、夜竹早に通ってました。友達は何らかの仕事をされて勉学に励んでいました。夕方息を切らして学校に着くとピアノの音が鳴り響き活気づいていました。私は天野蝶先生のリトミックの授業が好きでしたが、仲々リズムがとれなくて「ダメダメ」の注意が懐かしいです。又森先生の大きな人形づくり、腹話術等楽しかったです。昼間助手の経験が夜の授業と相まって理解が出来充実してました。残念なのは卒業創作発表会に足を火傷して出られなかった事。卒業後幼稚園に 20 年勤務出来た事。そして仲良しの友達が出来た事。又このような思い出を書ける機会をいただき、有難うございました。

平成 28 年度卒業生 理事・幹事を迎えて

平成 29 年 3 月 14 日(火)事務局において 28 年度卒業生の中から理事 2 名幹事 4 名の方との懇親会が開かれました。16 日の卒業式を控え慌ただしい中で希望に満ち溢れたフレッシュな交流は楽しいひとときでした。こんな素敵な若者が未来を背負っていく、竹早の同窓生として巣立ちゆくことを心強く感じました。

初心に帰る

伊藤 麻美 H13.3卒

初めての教え子たちが先日成人式を迎えました。それを機に同窓会が開かれ、大きくなった子どもたちに久しぶりに会うことができました。成長した顔の中に残る懐かしい面影。どの子どもたちも立派になり夢に向かって頑張っている姿を見せてくれました。たくさん話をし、時には大笑いしながらあっという間の時間を過ごしました。初めての担任で、先生に向いていないのではと涙したり、子どもたちに助けられっぱなしだったあの頃の私。とにかく頑張ることしか出来なかった私に、「幼稚園本当に楽しかった！」と笑顔で卒園児たちは伝えてくれ、涙が出る想いでした。まだまだ未熟者の私、より一層保育に愛情をかけていこうと初心に帰り誓った日でした。

感謝

林 恵美子 H16.3卒

現在私は児童養護施設の幼児棟で働いています。「先生！おはよう！」のかわいい子どもたちに迎えられ一日が始まります。

私は40歳で竹早に入学し、人生の折り返しから保育士として忙しい日々を過ごしています。保育士の仕事を通じて人との出会い、人の痛みや人への愛等喜びや切なさを日々感じています。またそれらによって今生かされています。子どもたちの心身が健やかに育成されることを望みながらも、その背景に在る様々な問題も山積みしていますが、心豊かな充実した毎日です。

竹早での教えに感謝、「保育士」という資格に感謝。今後もまだまだ精進してまいります。

竹早時代～その後

岩崎 千代子 (旧秋谷) S40.3卒

今年、年女の私は、72歳を迎えます。竹早時代に想いを寄せる時、松石治先生の姿が、目に浮かびます。夜間の授業も異年齢の方々と、楽しく自然体で受けていました。東京オリンピックで、女子バレーボールの決勝戦を皆でテレビ観戦し、日本女子が金メダルに輝いた瞬間、三浦義雄先生が、「東洋の魔女は強い。」と称賛していたことを思い出します。又、第一子を身ごもりながらもリズムを教えてくださいました。竹早を卒業して38年乳幼児保育に携わり、退職後も、地域のファミリーサポートや赤ちゃん訪問員・愛育班員等10数年致しました。終了後の今は、元職場の友人達と趣味で、大正琴やギターを習って弾いて、楽しんでいます。

若い先生、がんばって

大塚 敏子 (旧関口) S45.3卒

竹早を卒業して40年あまりがたちました。今でも熱心な先生方の横顔が浮かびます。幼児教育の大切さと楽しさを伝えてくださいました。私も幼児教育を生涯の仕事としてできたことが喜びであり、誇りです。幼児教育は、幼児が豊かな子ども時代を過ごすことにあると確信しています。豊かとは「感性をはぐくみ好奇心を追及する」たっぶりの時間と考えています。ゲームなどで大切な時が奪われないようにと切に思います。現場は劣悪な労働条件や注入教育など教育とほど遠いところもあると聞いています。若い先生方が幼児教育のすばらしさを味わえるようにと願い、応援したいと思います。

生涯現役で

梅沢 盛子 (旧土田) S28.3卒

昭和28年4月、竹早を巣立ち胸ふくらませて勤務したのは小学校に併設の新設幼稚園でした。園児募集のポスター作りや入園式の諸準備、園児と楽しく過した事等は今でも懐しい思い出です。当時産休制度はありましたが、育休等は無く、13年目に心ならずも退職致しました。その頃の日本は、高度経済成長期で公害や食品による健康被害が起り、人々は安全で豊かな健康的な生活を望みました。私は食の大切さを考え以来栄養改善普及会の仲間と食育の活動をしています。勿論運動も休息も忘れずに。合言葉は「主食と9品目食品をバランス良く」マ(大豆)ゴ(胡麻)タ(卵)チ(チーズ・牛乳)ワ(若布)ヤ(野菜果物)サ(魚肉類)シ(椎茸類)イ(芋)

一度きりの人生をパワフルに！

村山 康江 (旧鯉沼) S55.3卒

幼稚園に就職、結婚、出産、退職、二人の子育て、そして子どもたちの成人、それぞれの結婚。

半世紀たった私の誕生日に届いた、息子達からのメッセージは、『50歳のお誕生日おめでとう』

長男「何歳になっても色々な新しいことにチャレンジするパワフルな人でいてくださいね。」

次男「人生の折り返し地点ですなあ、これからも楽しく生きていきましょい！」

二人の子どもと作り上げたかけがえのない子育て時間が、今の私の宝物となっている。

子育てが終了した今、また幼稚園で子どもたちから日々パワーをもらっている！！

竹早青春時代

茂木 由実 (旧富田) S48.3卒

卒業した時は、23歳でした。3年間は一般就職をして、どうしても夢をあきらめきれず幼稚園教諭をめざし、昼間は保育助手をしながら夜間部に通いました。授業は実技以外居眠りが多かったと思います。熱心に教えてくださった先生方ごめんなさい。同じ夢を目指して机を共にした人たちとは今も1年に1回は会うようにしています。皆それぞれ、未だにあの時のパワーは残っていて引退後も、地域活性化のために尽くしている人、子どもの家庭教師をしている人、老人施設にボランティアに行っている人、60代後半ですが頑張っています。あの夜間部の2年間はあったからこそ、こうして頑張って生きてこられたと思っています。ありがとうございました。

竹早に感謝

須賀 よし子 (旧合田) S48.3卒

今、私は福祉レクワーカーとして地域の公民館で介護予防体操の講師をしたり、ボランティアで高齢者の会食のお手伝い。又、市レク協に加盟団体として所属し、忙しく楽しく仲間とともに活動をしています。

こうして65歳の今を自分なりに生きて行けるのは、やはり竹早時代があったからこそ思っております。私にとって人生の修行の場だったと強く感じています。19歳の私は毎日1.5時間以上かけ通学しました。丁度夜間の授業中校舎前の道が路面電車の廃線工事をしていました。千代田公会堂でのコーラスやリズム体操の学習発表会、ピアノや折紙、就職活動。多くの先生にお世話になりました。感謝です。そしてそれは今も繋がっております。

私の今

武内 法子 S29.3卒

22年前の退職時には、「表彰状」を都教委・江戸川区長よりいただき、充実の日々を終えました。今は時間の全てが自分のものです。お稽古にボランティアに旅行等に使っています。お稽古は能楽です。能楽は室町時代から600年も続く伝統芸能で世界遺産です。私は能を6回演じました。日頃の稽古の積み重ねがないと難しいです。謡と舞を覚え、笛や鼓の音に全神経を集中して演じます。宝生能楽堂での「羽衣」国立能楽堂で演じた「胡蝶」は特に充実感・満足感の残る曲で忘れられません。能楽は奥の深い稽古と言われますが、続けられる幸せを感じます。今後は足腰を痛めぬよう気をつけ、体力・気力・暗記力のあるうちは楽しくお稽古を続けたいと思います。

全てに感謝

和田 英子 (旧吉野) S35.3卒

竹早教員養成所の夜間部に在学中、台東区立柳北幼稚園の保育助手として勤務、東京都教員採用試験を受験、竹町幼稚園の教諭として、専任園長はじめ先輩の先生方に手を取られながら歩き始めました。小学校併設園のため砂場遊びでも園児が校庭を横切り体育の授業の邪魔にならぬよう留意する指導が新卒の私には大変でした。

保護者の方々はとても温かく、有難く感謝の日々でした。子育てのため2時間かかる実家から通勤したりもしましたが十年ほど勤務し、その後流山市に転居したため葛飾区立幼稚園に転勤を申し出て多くの人々に助けられながら二十数年勤務、退職後二十数年過ぎた現在、地域の人々との交流に楽しい日々です。

竹早への感謝

行木 和代 S52.3卒

定年退職を迎え、私の歩んできた道を振り返る。保育現場で30年、保育と障害児に関する行政で10年、併せて40年間、子どもたちに係わってきた。初めて現場に出られた時は、嬉しくて、嬉しくて何にでも体当たりだった。そして、明日の保育について仲間と熱く語り合った。最後の4年間は、市川市で課長として障害児福祉行政の推進に携わった。療育は保育とは違うものだったが、子どもというキーワードで考えを広げていくことができた。難しくてもうまく進められない時は、子どもや保護者の笑顔を思い浮かべると不思議に頑張れた。定年というゴールを一気に駆け抜けた今、支えてくれた家族と保育の基礎を教えてくださいました竹早に感謝している。

ありがとう！竹早の仲間たち

菊地 妙子 S54.3卒

体育の授業。「菊ちゃん、頑張って！」と声援が聞こえる。三点倒立がなかなか出来ない私に年下の仲間が何回も声をかけてくれる。いよいよ最後の挑戦、「大成功」と言いたいが、残念無念。がっかりする私に今度は「ドンマイ、ドンマイ」の励ましの言葉がかかる。有難かった。高校卒業後5年の会社勤めを経てからの学生生活。期待と不安の入り混じる中、何の抵抗もなく温かく受け入れてくれた仲間たち。『ありんこクラブ』にも所属した。手遊びやリズム表現の何と楽しかったことか。その上、年下のメンバーにリードされながら、発表会で舞台にも立った。2年間楽しい思い出ばかりが浮かぶ。竹早の仲間たちに感謝！！

竹早教員養成所から頂いた人生

林 一三子 (旧岡田) S40.3卒

昭和39年10月、第18回東京オリンピックでは高校同期の依田郁子さんの活躍に湧く中、私は、当時すでに「こども園」的発想で運営されていた葛飾学園山口敏子先生の勧めで幼稚園教諭の資格を取るべく竹早夜間部へ編入し、昼間は保母、夜は学生として過ごしていました。夜の学は昼間の保育の悩み解決の場として、保育方法や児童心理学は当然として全てが関心事であり、居眠りをする間もない充実の日々でした。その後幼稚園教諭として人的環境に恵まれ、信頼関係を基本に『教師が変われば子どもが変わる、子どもが変われば親も変わる』の巡りを、子どもに対する大人=教師の責任として追及できたことは幸せでした。見沼田んば保身に夢中です。

竹早での二年間

山本 明乃 (旧花田) H9.3卒

社会人を六年間経験し、辞めてから竹早に入学しました。その時初めて習い始めたピアノ、初めての女の子ばかりの学校、そしてほとんどが年下の子ばかり。とまどう事も多くありましたが、すぐに仲良くなり本当に楽しい毎日でした。授業が終わると学校に残ってピアノの練習、保育園でのアルバイト、あっという間の二年間でした。いろいろな人に支えられて過ごす事が出来、本当に感謝しています。今は家事と子育てで毎日慌ただしく過ぎていますが、竹早での二年間は今も懐かしく大切な時間だったと思っています。いつかまた、何かの形で保育の仕事に携わる事が出来たらと思っています。

同窓会80周年記念事業について

学校法人竹早学園竹早教員保育士養成所創立130周年を同窓会は創立80周年を迎えます。

養成所130周年同窓会80周年を祝い、記念行事・記念事業を次のように行います。なお、会場は校舎で行います。

1. 記念行事・記念事業

(1) 記念式典 平成29年10月1日(日)

- ①第1部 養成所130周年記念 学生対象
学生及び学校関係者 同窓会は会長列席
- ②第2部〈養成所・同窓会合同式典〉
〈養成所〉来賓、旧学園役員、旧職員
〈同窓会〉来賓、顧問、他

(2) 祝賀会 平成29年10月1日(日)

- ①養成所・同窓会両方を祝う会とする。
- ②養成所・同窓会・後援会など関係者。

2. 研修会を「同窓会創立80周年研修会」とする。

※ 祝賀会に皆様にご参加いただきたく検討を重ねてまいりましたが、祝賀会会場の都合もあり、この「研修会」の講演会後の昼の部に会員皆様と共に相集い祝賀を兼ねた「お祝いの会」といたします。日頃会員の皆様の同窓会に寄せる深い愛情を感謝しながら楽しい研修会にしたいと考えております。また、実技研は素敵なゲストをお招きしております。お誘い合わせてご参加下さい。

3. 記念誌を発行する。

「ささぶね」32号を記念誌として編集・発行する。

※ 同窓会は昭和5年に発足しておりますが、戦時中休会など苦難の歴史があります。歴代多くの方々が守ってくださった、この輝きを未来にわたってつないでいけるように、式典祝賀会の様子・母校130周年略史なども併せて編集・掲載・発送する予定。

同窓会のあゆみ

- 昭和5年同窓会誕生。翌年から休会
- 昭和14年復活 初代会長松石 治(大正14年卒)就任
 - ・夏季研修会開催 4日間「時局下の保育について」
 - ・独立校舎建設の呼びかけを行う。
- 昭和20年～23年
 - ・終戦前後の混乱期に松石 治が母校の重要書類を守り戦後の混乱期も同窓生の保育相談に応じ続ける。
- 昭和24年校名改称に伴い竹早教員養成所同窓会と改称
- 昭和31年校舎新築・図書寄贈の協力募金開始
- 昭和32年新校舎建設 協力寄付 落成式に協力
- 昭和38年会員名簿作成
- 昭和44年同窓会創立30周年記念祝賀会開催
 - ・会報「ささぶね」創刊 隔年発行
 - ・夏期講習会開催 毎年度実施
- 昭和54年二代会長 布施マサ(昭和25年卒)就任
- 昭和63年養成所創立100周年
 - ・母校100周年記念の集い開催
- 平成2年 母校の研究指導資料作成に参加
- 平成7年同窓会名簿(明治22年～平成7年)
- 平成11年校名改称に伴い竹早教員保育士養成所同窓会と改称
- 平成13年入学生に入学祝竹早エプロンを贈呈
- 平成14年三代会長前田美知子(昭和27年卒)就任
 - 維持会費設定 任意性 毎年募集
- 平成18年会報「ささぶね」毎年発行となる。
- 平成19年同窓会事務局新開設 第2校舎内
- 平成20年学生就職活動支援 コピー機寄贈
- 平成24年四代会長下平喜代子(昭和27年卒)就任
- 平成24年夏期研修会に在校生も参加
- 平成29年母校創立130周年同窓会創立80周年
 - ・記念式典祝賀会合同開催。実行委員会を立ち上げる。
 - ・同窓会創立80周年記念「研修会」併せて「お祝い会」を7月30日に行う
- 平成29年10月1日記念式典・祝賀会合同開催